

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200036		
法人名	有限会社 稲満会		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	鹿児島県霧島市国分下井2988		
自己評価作成日	平成24年2月9日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	県ホームページより
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成24年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・国道より少し海岸側に入った田園地帯に立地しており、部屋によっては窓から桜島を望むことができる。周囲は季節の移り変わりを感じやすい場所で、徒歩圏内は海岸があり、散歩をするには恵まれた環境である。
 ・代表者が「ここではうららかに過ごしてほしい」という思いから「うらら」と名付けているため、スタッフ一同自宅と同じようにできるだけゆったりと笑顔で過ごしていただけるよう取り組んでいる。
 ・医療面では運営母体がなく独立型であるため、協力医療機関に緊急時の対応を依頼している。また、医療連携担当の看護師とともに介護スタッフにも看護師の有資格者を中心に、全スタッフで協力しながら健康管理を行っている。食事面では社内に管理栄養士が在籍しており、メニューの原案を考えるなど施設長とともに栄養管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国分インター近くに位置し、国道10号線より少し小道を入った海岸側で、田園風景に囲まれたデイサービスと併設しているホームである。運営推進会議では、多くの地域協力者の参加により、活発な意見が得られ、災害時に対する取り組みなどサービス向上に繋げている。家族の面会が多いことや運営推進会議に交代で出席するなど協力的である。また、利用者からも「ここに入れて良かった」と安心の声が聞かれる。趣味や生活習慣を生かした個別の介護計画が作成され、実行に向けた取り組みがなされている。職員は、家庭的な雰囲気作りを常に目指しケアにあっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために、目につく場所(玄関・ホール)に貼り出している。管理者を始めスタッフ一同、理念の実践についてはなかなか思うようにはいかなかったり、おろそかになってしまったりするが、努力している。	「地域の方々との交流」などを含んだ理念は、ホーム開設時に作成され、管理者や職員は理解している。個々の力量に合わせて洗濯物をたたむなど理念の一つ「利用者中心のケア」を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、今年度は自治会長である。自治会の行事に場所を提供することもある。運営推進会議には地域から公民館長・自治会長・老人クラブ会長・民生委員・消防団員に出席していただいている。	ホームは、花見や施設見学などで自治会行事に場を提供する他、ボランティアによる踊りやホーム行事時に招待し、地域交流を図っている。近隣の方より野菜の差し入れを受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、特別な取り組みはないが、イベントがある際は回覧板等で周知している。また、運営推進会議の際に地域代表の方にお話することはある。学生の実習受入れの際は初日に認知症について簡単に説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2ヶ月に1回、偶数月開催。活動報告や事故の発生状況・入退居状況・スタッフの人事などの報告、質疑応答などを行っている。また、会議の中で地域の方を始めとする外部の方に意見を求めるなどしている。	会議は、多くの知見者で構成され、家族は交代で出席している。ホームは、災害時における備蓄やライフジャケットの購入などサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の際に意見を求めるなどしているが、疑問に思うことがあったりすると、その都度電話で問い合わせるなどしている。市の催し物がある時には参加するなどしている。	ホームは、市担当者へ業務時間の変更手続きの相談などを通じ、協力関係を築いている。市主催の地域福祉まつりや認知症サポーター養成講座などに積極的に参加し、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内でガイドラインを定め、皆でアイデアを出し合っている。今まで具体的な身体拘束の例はないが、厳密に言うと拘束と取れる言動などが出ていることもある。外傷や事故の恐れがある場合はリスクマネジメント(安全対策)とセットで考えている。	ホームは、社内独自のガイドラインを作成している。職員の都合で行動を制限しないように注意している。職員は、身体拘束の具体的な行為について理解しているとは言いがたい。	身体拘束についての研修を行い、理解を深めることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンスルールの遵守に取り組んでおり、ホールの壁にも掲示している。資料などで高齢者虐待について紹介はしている。またスタッフ各自、自分の言葉使いが虐待につながらないように意識している。		

自己 評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で資料を作成して学ぶ機会を設けたが、このような制度があるとぼんやりと分かったという段階。ご利用者やご家族に対して制度の概要を説明したり、活用を勧めるには更なる学習や時間が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回契約時は、前もって契約書等の書類をお渡しして、目を通していただくようお願いしている。また、改定の際は全体に関わることなどは文書でお知らせして、その後できるだけ個別で直接説明をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、家族会を年2回開催し、ご家族のみで話し合う機会を設け、会長を通じて意見や要望を受けている。その他、運営推進会議に交代で家族代表として参加していただき、意見を述べる機会を設けている。	ホームは、年2回(3・9月)の家族会や毎月の面会時に利用者の状態を家族に伝えている。職員の写真と名前を掲示するなど運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別ミーティングにて意見や要望は聞いている。意見や要望があった場合は状況が許せば可能な限り意見を取り入れるように努めている。代表者の判断を要する場合は、代表者に報告し、判断を仰いでいる。スタッフ会議などで経営陣に伝えることもある。	管理者は、個別で職員に声をかけたり、施設長も同席するスタッフ会議などで職員の意見を聞ける場を設けている。職員の勤務体制を変更するなど運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与・賞与に関してはできる範囲内でスタッフに還元できるように努めているとのこと。勤務や休暇の希望、有給休暇の取得に関しては、業務に差支えない限り、気持ちよく働けるように、できるだけ希望に添うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	始良・伊佐地区グループホーム(以下GH)協議会の開催する研修に参加したりしている。また、人員などの条件が合えば、外部研修への参加を勧めている。社内研修の開催については難しい面もあり、資料を作って完成したら目を通してもらうなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区GH協議会が研修等を定期的に開催して下さるので、できるだけ現場スタッフで参加するようにしている。スタッフも他事業所の現状を知ること、自施設を見直すよい機会となっている様子。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも入居の際の不安を軽減するために、距離的に可能であれば、入居前には必ずご本人の元に訪問して、顔を知ってもらう機会・話を伺う機会を設けている。また、スタッフも入居直後は手厚く接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に最低1回は施設を見ていただいている。また、契約前に書類をお渡しして契約書等に目を通す機会を設け、次の面談等で考える時間を作ることで、疑問点や希望・要望等を改めて確認できるようにしている。入所後はスタッフも面会時に積極的に情報交換をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居問い合わせや初回面談の際に、他のサービスがよいのではと思われる時には、(積極的なリハビリを希望している場合は老健を勧めたりするなど)他のサービスや他事業所を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物干しなどを一緒に行ったり、お風呂やお盆を拭くことを依頼し、スタッフと利用者の方が分担して作業をするなど、お互いに信頼して家事をするようにしている。スタッフもお客様というより家族の一員として接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は施設長・スタッフが必ず声をかけるようにしていると同時に、お茶を出して自室で家族だけの時間をゆっくりと過ごせるように配慮している。親子遠足やクリスマス会など、ご本人とご家族が触れ合える行事を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人・ご家族の拒否がなければ、馴染みの方の面会も受け入れている。また、外出・外泊などで自宅に帰る機会を設けることも積極的に奨励している。併設のデイサービス(以下DS)を利用していた方やDSに友人が来ている場合は、日中DSで過ごしていただくこともある。	入居時のアセスメントや毎月の面会時、日々の会話で本人の馴染みの人や場について把握している。ホームは、知人宅でお茶をしたり、家族の協力で誕生日を共に過ごしたり、馴染みの美容院へ行くなど個々に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との交流が苦手な方に対しては、スタッフが間に入って仲を取り持つなど、孤立しないように配慮している。また、リビングにあるソファを活用して、ご利用者だけで話をしやすい雰囲気を作ったり、スタッフが話のきっかけを作ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主な取り組みとしては、年賀状など文書でのやりとりを継続している。また、相談があった場合は相談を受けるように努めている。ご本人の退居後も、踊りのボランティアでホームに来所されるご家族の方もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面と向かっては表現されない方もいらっしゃるの で、日常会話等からも本人の意向を汲み取ろうとして いる。職員に話さなくてもご家族に話すこともあり、 ご家族から情報を得ることもある。それでも困難な 場合は表情や言動などから汲み取ろうと心がけている。	職員は、入浴時や個別ケア時に本人の希望や思いを把握している。経過記録や申し送りノートに記載し、全職員が周知し、本人の意見を尊重したケアができるように努めている。	経過記録の書き方を工夫することで、本人の思いや意向の把握がし易くなり、さらにケアプランに反映されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・担当ケアマネ(または施設・病院の担当者)等から話を聞き、情報をスタッフ間で共有することで本人らしい生活が維持できるように支援し、スムーズにGHでの生活に移行できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人やご家族・担当ケアマネ(入院・入所している場合は担当のスタッフ)などから話を聞き、状態を把握している。入居後はこまめに記録することでスタッフ全員が現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認するとともに、スタッフに日常の様子や留意点などを確認して計画を作成している。モニタリングに関しては経過記録を参照したりスタッフから情報収集したりすることで定期的に実施し、必要時は計画の内容を変更している。	プラン作成時は、サービス担当者会議に家族も同席し、サービス内容について共有している。「日記をつける」など個別に応じたケアプランが作成されている。モニタリングは、経過記録やミーティング時などに情報収集し、毎月計画作成者が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にその日の様子などの経過を記録するようにしている。記録用紙はそれぞれ個人別にファイルで綴じており、ファイルを見ればその方の経過が誰でも分かるようにしている。介護計画の見直しや作成にも有効的に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合が合わない場合は受診にお連れしたり、入退院時の送迎をしたりしている。ご本人・ご家族だけの受診が不安な場合は付き添いもしている。また、併設のDSに知人が来ている場合にはDSで過ごしていただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校の職場体験学習や専門学校の現場実習を積極的に受け入れている。一緒に家事やレクリエーションをしたり、昔の話をしたりすることで利用者の方の潜在能力を生かしていただいている。また、地元の消防団の協力を得て合同で訓練をすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医に継続して診ていただいている。受診が困難な方や希望があった方については協力医療機関の往診を受けることができるようにしている。協力医療機関には急変時にもすぐ対応していただけるようお願いしている。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望を踏まえ、ほとんどの利用者が2週間毎の往診を受けている。通院時は、看護師による利用者の状態メモを家族へ渡し、スムーズに診察ができるように工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関に対して窓口担当となる看護師と介護スタッフが情報交換を密に行い、適切な受診や看護を受けられるように努めている。介護スタッフにも看護師の有資格者が複数名おり、窓口担当の看護師をフォローするなど協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対しての窓口（施設長・看護師）を決めており、窓口担当が主に病院関係者とやりとりを行うようにしている。情報提供書などを活用し、スムーズに連携を図ることができるように努めているが、時折医療機関との情報交換がうまくいわずに双方の認識にズレがあることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で意向を確認しているが、現実的な問題となった時点で改めて意向を確認しており、ご本人やご家族が望む場所で生活できるように支援している。ホーム内で亡くなっていったというケースはあるが、現段階でホームとして看取り介護の経験はない（対応できるようにはしている）。	重度化や終末期のケアについては、入居時より本人や家族と話し合い、指針や意見確認書を交わしている。入居継続については、医師の判断等を踏まえ対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時に消防局から心肺蘇生・応急手当・AED講習等の指導を受けている。実際の場面での対応に不安があるという声もあるが、回数を重ねることで少しでも慣れて、有事に落ち着いて対処できるように取り組んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練をおよそ年に2回実施している（内1回は夜間を想定して）。また運営推進会議にて地域の方を交えて災害対策について検討している。その他、地元の消防団と連携を図り、避難場所のアドバイスをもらったり、合同での訓練を実施したりしている。	ホームは、消防署立ち合いで夜間想定訓練を実施している。備蓄品として、飲料水・缶詰を確保している。地区の消防団と共同で防災・津波対策マニュアルを作成している。	ホームは、自主訓練を実施することで利用者を安全に避難できることを期待します。

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスルールの遵守に取り組んでおり、認知症ケアの心得とともにホールの壁などにも掲示している。プライバシーについては医療機関への情報提供や社内紙における写真掲載などの同意は得ている。時折言葉かけが乱れることがあるので、各人が気をつける必要がある。	職員は、認知症ケアの心得などの書類を日頃より目視し、呼びかけや言葉使い、着替え時などの対応について気を付けている。記録物には、タオルをかけるなど人目に触れないように配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を聞いたり、いくつか選択肢を提示してその中から選択していただくなど、自己決定ができるように努めてはいるが、ご本人の安全や健康状態を考慮した場合や、認知機能の低下が著明な方に対してはスタッフ主導で決定せざるを得ないこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせることは難しい面もあり、スタッフの都合に合わせていただいていることもある。状況が許すならできるだけ希望に応じるように努めているが、最近は重介護者が増えたため、希望に添えないことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方に関しては、着たい服を選んでいただいている。自分で服が選べない方に関しては、スタッフで選んで、それでいいか悪いか意向を聞くようにしている。日常的ではないもののイベントがある時などにはスタッフの協力を得てお化粧をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理全般は難しいが、下ごしらえや盛り付け・食器洗いなどは手伝っていただいている。配膳や下膳などは日常的に手伝っていただいている。食事中は利用者の方とスタッフと同じテーブルで話をしながら一緒に食べている。	昼食については、バランスのとれた管理栄養士の献立を併設のデイサービスと共同で調理をしている。弁当持参で海岸へ出かけたり、ホテルで外食をするなど食事を楽しむ工夫ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1500ccを目標に摂っていただいている。無理強いはないが、できるだけ水分量が確保できるように工夫し、チェック表を用いて摂取量を把握するように努めている。栄養バランス・カロリーについては施設長・管理栄養士を中心に考えられている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後は任意であるが、できるだけ昼食後もできるように取り組みたい。介助が必要な場合は利用者の状態に応じて介助している。特に夕食後・就寝前は必ずスタッフでチェックし、義歯の方はお預かりしている。週1回は義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間を見ながらトイレの声かけやトイレ誘導を行っている。夜間については排泄を気にするより、ゆっくり眠っていただくことを優先しているが、ポータブルトイレなどを活用してできるだけおむつに頼らないように努めている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導している。排泄の自立に向けて、オムツからリハビリパンツへ下着の形態が改善された人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳と乳酸菌飲料を提供すると同時に、水分摂取量が十分に確保できるように取り組んでいる。また、排泄チェック表にて排便パターンの把握に努めている。それでも難しい場合は緩下剤を使用している。もう少し運動量を増やせるように工夫していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴できるようにしている。希望時は時間や状況が許せば入れるようにしており、入りたくない場合は無理強いはいしない。時間帯についてはいつでもというわけにはいかないが、スタッフの人員が確保できている時間帯ならなるべく希望に添うようにしている。	入浴は主に午後を予定しているが、利用者の希望や体調に添って、週3~4回の支援ができています。併設のデイサービスでのかけ流し人工炭酸泉は、多くの利用者に好評で使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯とはしているが、厳密な消灯時間は設けておらず、本人が休みたい時に休んでいただいている。起床時間に関しても、声かけはするが、熟睡している場合は自然に目が覚めるまで様子を見ている。また、室温調整をするなど、安眠できるようにスタッフで配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルにそれぞれ薬の説明書を綴っており、目を通せるようにしている。また、内服の追加や変更などがあつた場合は、看護師より口頭・申し送りノートなどでスタッフに周知している。また、看護師にて少しでも薬の量が減らせるように主治医に相談しながら援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の方の状態に合わせて、ホールの床掃除(シートがけ)、お椀・お盆拭き、洗濯物の取り込みや洗濯物たたみ等を依頼し、それぞれの役割として家事の手伝いをさせていただいている。楽しみごとに対しての支援を工夫していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその時の気分に応じて、外出の支援をするのは現実的に難しい面もある。スタッフの人員配置に余裕がある場合は玄関先で外気に触れる機会を作ったり、近隣を散歩したり、ドライブなどしている。イベントとして外食の機会も設けているが、日常的な外出の頻度を増やせるように努力したい。	天気に合わせて、近くを散歩したり、玄関先でくつろぎ外気浴をするなど心がけている。ホームは、家族へ呼びかけたり、外食やドライブなどを計画し、外出支援をしている。	年間行事の中に、外出計画を立てて、個々の希望に添った支援が実現できることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため基本的に金銭は事務所預かり。どうしても手元に持ってほしいという方に関しては紛失してもホームに責任を問わないという条件で小遣い程度の所持を了承している。ただし、買物等で外出した時は所持金で欲しい物を購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時には電話ができるように支援している。中には県外の友人に文通のような形ではがきや手紙でやりとりをしている方もいらっしゃる。代筆(場合によっては)や宛名書き・ポストへの投函などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に合わせて花や置物などを飾り、ホールには貼り絵(皆で取り組んでいる)を飾ることで季節感を味わえるように努めている。また、落ち着いて過ごせるように大幅な模様替えをしないように心がけている。節電のため、照明をやや暗くしており、直接的な訴えはないが中には不安に感じる方もいらっしゃると思う。	ホールの天井が高く、開放感のあるつくりであり、清潔感がある。ホールには、空気清浄機を設置しており、利用者の体調管理に役立てている。利用者の動線に物を置かないなど居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のベンチなどをホールに置いている。ソファに座って仲の良い方同士で談笑したり、畳のところで2~3名で洗濯物たたみをしていただいたりしている。ソファはテーブルの斜め後方に置いており、他者と距離を置きたい時などにも利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ちこみを働きかけている。古い鏡台やキーボード、家族の写真や遺影を持ち込んでいる方もいらっしゃるが、家具に関してはプラスチック製の収納ケースなどを持ち込まれる方が多い。スタッフとしては写真を飾るなどして工夫している。	居室には、クーラー・ベッド・机・吊るし棚が備え付けられており、個人の思い思いの品々を持ち込んでいる。ホームは、コルクボードを設置し、カレンダーや写真などを自由に貼れるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体はバリアフリー構造。個別的にはその方に合わせてベッド柵や介助バー、あるいはコルクマット及びワイヤレスチャイムを利用して、その方の残存能力が最大限活かせるように、かつ安全に過ごせるようにスタッフで検討して環境を整えている。		